

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Increased drinking in a metropolitan city in China: a study of alcohol consumption patterns and changes 中国都市部における飲酒の増加について：アルコールの消費パターンと変化に関する研究	
<b>執筆者</b> Zhang J, Casswell S, Cai H	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Addiction 2008; 103: 416-423.	
<b>キーワード</b> consumption, frequency, larger quantity drinkers, mean, median, socio-economic status, typical occasion quantity, urban residents 消費、頻度、多量飲酒者、平均値、中央値、社会経済状態、都市部居住者	
<b>要 旨</b> 目的： 中国都市部における飲酒状況と、2002年から2005年間の飲酒にまつわる変化について調査を行う。 方法： 2327人及び2613人からなる無作為抽出された2つの集団において、同じ方法で対面式聞き取り調査を行う。対象者は15歳から65歳のHubei省Wuhan市の住民で2002年の5月から6月、2005年の6月から8月にかけて調査を行った。調査の内容は、飲酒率、飲酒頻度、平均的飲酒量、通年の飲酒量、多量に飲む場合の飲酒量が主なものである。 結果： 2005年には全体の約4分の3が現在飲酒習慣ありと答え(男性の90%、女性の55%)、男女とも2002年に比べ有意に飲酒率は増加していた。最も伸び率が著しかったのは18-19歳の若い世代と、年輩の女性であった。飲酒頻度、平均的飲酒量、アルコール消費の絶対量にはこの3年で大きな変化はなかった。しかし飲酒率の増加を反映し、この2回の調査の間で絶対的アルコール消費量の中央値は有意に増加していた。年輩の男性ほど多量飲酒に分類される傾向があり、30-65歳では63%が多量飲酒者であった。またこの2回の調査の間で多量飲酒者の割合が増加していた。男性の多量飲酒者の割合は2002年には27%であったが、2005年には35%であった。 結論： 中国都市部Wuhan市において2002年から2005年間に飲酒率は増加し、若い世代と年輩女性でこれは特に顕著であった。飲酒頻度と量には大きな変化はなかった。男性の飲酒量は、大量に飲酒すると言われる他の集団での飲酒量に匹敵するくらいのものであった。ことに年輩男性ではこの3年間に多量飲酒する人の割合が増え、大量に飲酒する地域での多量飲酒者の割合よりも多かった。他の飲酒量が多いとされる集団と比べても今回の対象集団の飲酒量は比較的多いほうであり、適切な対策がなされないと飲酒率の増加により害がもたらされるかもしれないことをこのデータは示唆している。	